

為替週間展望 = ドル円は高値圏での一進一退の動きか

[4月6日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		4月6日～4月10日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	159.56	160.03(7)	157.89(8)	159.31	-0.36
ユーロ・ドル	1.1522	1.1722(8)	1.1505(6)	1.1684	+0.0165

国内株・金利/米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	56,924.11	+3800.62	日本10年債利回り	2.435	+0.049
ダウ平均株価	48,185.80	+1681.13	米10年債利回り	4.275	-0.065

<来週の主要経済統計等>

- 13日 日銀植田総裁が信託協会であいさつ
米3月中古住宅販売件数
国際通貨基金 (IMF) と世界銀行の春季会合 (18日まで)
- 14日 中国3月貿易収支
日本2月鉱工業生産指数確報値
米3月生産者物価指数
- 15日 日本2月機械受注
ユーロ圏2月鉱工業生産指数
米4月NY連銀製造業景気指数
カナダ2月製造業出荷、カナダ2月卸売売上高
米3月輸入価格指数
米2月対米証券投資
米地区連銀経済報告 (ページブック)
- 16日 豪3月雇用統計
中国第1四半期GDP、中国3月小売売上高、中国3月鉱工業生産指数
英2月鉱工業生産指数、英2月製造業生産指数、英2月貿易収支
スイス3月生産者輸入価格
ユーロ圏3月消費者物価指数確報値
米新規失業保険申請件数、米4月フィラデルフィア連銀景況指数
米3月鉱工業生産・設備稼働率
- 17日 ユーロ圏2月経常収支、ユーロ圏2月貿易収支

【前回のレビュー】ホルムズ海峡閉鎖による原油高やそれに伴うインフレ懸念から、ドル買いの動きは続きやすくとみられる。一方で、ドル円は160円超ではドル売り円買い介入が警戒されて上値を抑えられやすい展開が見込まれる。こうした中、ドル円は高値圏でのみ合いが継続するとした。

【金融市場は米国とイランの停戦合意後の動きに注目】

4月6～7日のドル円相場は、中東情勢による先行き不透明感から160円台まで上昇する場面も見られた。8日の朝に「米国とイランが2週間の停戦で合意した」と報じられると、「有事のドル買い」の巻き戻しの動きから159円台後半から157.80円台まで大きく値を崩した。NY原油も18ドル超の下落となり、96ドル台まで値を崩した。

8日の日経平均は2800円超の急騰となり、5万6000円台まで上値を伸ばした。この日のNYダウは1325ドル高と急伸している。

その後、イスラエルが停戦合意後もレバノンの親イラン武装組織ヒズボラへの攻撃を続けていることで、イランは停戦合意への合意違反と批判しており、ホルムズ海峡を「再封鎖」と表明している。こうした中、9日のNY市場で有事のドル買いの動きからドル円は159円台前半まで上昇した。

ただ、イスラエルがレバノンと直接和平交渉を進めるとの報道から158円台半ばまで値を崩した。いったん下落したものの、中東での今後の停戦や和平交渉は不透明感が根強く、159円台前半まで再度上昇を見せた。

【停戦協議やホルムズ海峡の動向に注目】

4月13日の週に予定される日米の経済指標やイベントは、13日に米3月中古住宅販売件数、14日に日本2月鉱工業生産指数確報値、米3月生産者物価指数、15日に日本2月機械受注、米4月NY連銀製造業景気指数、米3月輸入価格指数、米2月対米証券投資、16日に米新規失業保険申請件数、米4月フィラデルフィア連銀景況指数、米3月鉱工業生産・設備稼働率などがある。

引き続き米国とイランの停戦に関する動向やホルムズ海峡の「再封鎖」関連の報道に左右される展開となっている。停戦協議が難航して、ホルムズ海峡の封鎖が続くようなら、原油価格が一段と高騰してインフレ警戒感からドルが一段と上昇することとなりそうだ。その際には各国の株安が進むとみられる。一方で、停戦協議の進展による原油供給への警戒感が後退するようなら、ドル安に傾くこととなろう。

これまで強硬姿勢を見せてきたイスラエルがレバノンとの和平交渉で、早期に終結へ向けた道筋が示されるかどうかも懐疑的な見方が根強い。

米国とイランの停戦協議は短期間で穏やかな決着に至る可能性は低いとみられ、難航する協議の行方を眺めながらドルや主要通貨は高下する動きを継続することとなりそうだ。こうした中、ドル円は高値圏での一進一退の動きが継続するとみられる。目先の予想レンジは156.00～161.00円。

※米政府機関の閉鎖と再開に伴い、米経済指標の発表日の変更・追加される可能性がある。

【ユーロドルもポンドドルも堅調な推移か】

4月6～7日はドル買いの動きが落ち着き、ユーロドルは1.15台前半から1.16近辺まで上昇を見せた。その後、8日の朝に「米国とイランが2週間の停戦で合意した」との報道からドルが売られると、1.1722近辺まで急伸した。その後は高値圏での調整となり、1.16台半ばから後半でのみみ合いとなった。

ユーロドルは引き続き中東情勢に左右されやすい展開が見込まれる。チャート上では21日移動平均線を上抜いた後も堅調に推移しており、5日移動平均線をサポートに堅調に推移している。また原油高や天然ガス価格の高騰によるインフレ懸念につながり、年内の利上げ回数見通しは2.4回程度となっている。こうした流れが続いて、みみ合いながら上値を追う展開が見込まれる。ユーロドルの目先の予想レンジは1.1500～1.1850ドル。

ポンドドルは上昇基調で推移している。8日の米国とイランの停戦合意報道で1.34台後半まで上値を伸ばした。原油高に伴うインフレ警戒から英中銀（BOE）による年内の利上げ回数見通しは1.2回程度となっている。原油の乱高下で利上げ回数見通しも変化が見込まれるが、インフレ懸念がポンドドルを下支えする要因となりそうだ。目先の予想レンジは1.3200～1.3600ドル。

今後の日米以外の経済指標としては、14日に中国3月貿易収支、15日にユーロ圏2月鉱工業生産指数、カナダ2月製造業出荷、カナダ2月卸売上高、16日に豪3月雇用統計、中国第1四半期GDP、中国3月小売売上高、中国3月鉱工業生産指数、英2月鉱工業生産指数、英2月製造業生産指数、英2月貿易収支、スイス3月生産者輸入価格、ユーロ圏3月消費者物価指数確報値、17日にユーロ圏2月経常収支、ユーロ圏2月貿易収支などが予定されている。

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。